ＮＰＯ法人ネパール野球ラリグラスの会 会報誌

ラリグラス通信

2017年度増刊第２号　2017年８月１日発行

当会の小林洋平理事長（左）と鈴木大地スポーツ庁長官（右）

2017年7月5日「スポーツ庁長官感謝状授与式」にて
（東京・新宿ＮＳビル ＮＳスカイカンファレンス）

ラリグラスの会のFacebook
ページに「いいね」しよう。

当会ではFacebookページを運用しております。
Facebookページを通じて当会の活動に関する情報をタイムリーにお知らせいたします。

ラリグラスＦＢ

野球から広がる笑顔の輪

スポーツ庁長官感謝状受章者一同

スポーツ庁長官感謝状

２０１７年７月５日に開催された「SPORT FOR TOMORROW」（以下、ＳＦＴ）の第３回全体会議において、当会がスポーツ庁長官より感謝状を授与されました。

ＳＦＴは２０２０年に行われる東京オリンピック・パラリンピック招致を契機とした日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業です。ＳＦＴでは、初の試みとして、これまでのＳＦＴ認定事業の中から、特にモデルとなるような取組みを実施した団体を対象に、スポーツ庁長官感謝状を授与することとなり。当会も受章団体のひとつに選ばれました。以下、この度の受賞についてご紹介いたします。

「SPORT FOR TOMORROW」第３回全体会議

年１回開催されるＳＦＴの会員団体が一堂に介した会議です。
今回の全体会議には２５０名以上の参加者がありました。

■日時：２０１７年７月５日（水）17：00～19：00
■会場：新宿ＮＳビル ＮＳスカイカンファレンス（東京）
■概要：スポーツ庁挨拶、2016年度の総括と2017年度の方針、
　　スポーツ庁長官感謝状授与式、外務省挨拶

スポーツ庁感謝状授与式

今回は以下の７団体にスポーツ庁長官の感謝状が授与されました。
・日本ラグビー・フットボール協会（最大裨益者の創出）
・株式会社アシックス、日本卓球株式会社、日本卓球協会（多様性を尊重する世界）
・ＮＰＯ法人ネパール野球ラリグラスの会（持続可能で逆境に強い世界）
・国際武道大学、セノー株式会社（クリーンでフェアな世界）

鈴木大地スポーツ庁長官の挨拶（抜粋）

ＳＦＴ事業にご尽力いただいております皆様に改めまして感謝申し上げます。
スポーツ庁は、今年の４月１日から「第２期スポーツ基本計画」をスタートさせました。その中で、「スポーツで人生が変わる」、「スポーツで社会を変える」、「スポーツで世界とつながる」、「スポーツで未来をつくる」というスローガンを掲げておりますが、世界とつながるのがこのＳＦＴ事業です。スポーツには、スポーツを通じて外国のかたと友達になる、そして同じ気持ちを共有するという目的もあります。このＳＦＴ事業を我々の大きな柱としていきたいと思っております。今後とも、皆さんとともに盛り上げてまいります。

新聞での報道

今回の受章については、新聞でも報道されました。

2017年7月7日 奈良日日新聞

ネパール野球ラリグラスの会に感謝状

スポーツ庁 継続的支援など評価され

山添村を拠点に活動している社会人硬式野球クラブチーム「ナインフォース」の運営母体であるNPO法人ネパール野球ラリグラスの会（小林洋平理事長）は5日、文部科学省が策定した第2期「スポーツ基本計画」の基本方針のひとつである「スポーツで『世界』とつながる！」に大きく寄与したとして、鈴木大地スポーツ庁長官から感謝状が贈られた。

感謝状の贈呈は、日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業「スポーツ・フォー・トゥモロー」の趣旨に賛同し、スポーツを通じた国際貢献に携わる団体の中から7団体が選定。同会は「災害からの復興支援」と「15年以上にわたる長年継続支援」が評価された。

小林理事長は「現状に満足することなく、2020年、さらにはその先の将来を見据えた活動をこれからも展開していきたい」と今後の展望を語った。

【7月14日付で詳報】

鈴木スポーツ庁長官（右）から感謝状が贈られた小林理事長＝NSスカイカンファレンスで

2017年7月14日　奈良日日新聞

「共に成長の『協働』を」

合言葉は「野球から広がる笑顔の輪」――。5日に開かれた日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業「SPORT FOR TOMORROW（SFT）」の第3回全体会議で、SFT認定事業のモデルとなる取り組みを実施した団体の一つに認められ、感謝状が贈られたNPO法人ネパール野球ラリグラスの会。

同会の活動が始まったのは平成11年。大阪にあるプール学院大学の海外研修がきっかけだった。当初、ネパールでは野球が全く知られておらず、「これがボールです」といった道具の説明からスタート。ゼロからの活動ではあったが、野球人口も徐々に増え、今では国際大会にも出場できるようになった。

スタッフは皆、本業の傍ら無償のボランティアで参加。理事長の小林洋平さんも大阪で団体職員として働きながら活動を続け、これまでネパールには約30回訪れている。

「当会の活動は一方的な支援ではなく、活動を通して共に成長する『協働』を理念としている」と説明する小林さん。「ネパールの人たちと一緒に活動を続け、将来的にはネパール人による自立したネパール野球を作り上げてほしい」

今後の展開について「災害時の避難所も兼ねたグラウンド建設の計画を進めている。ネパール国内の野球関係者も『完成したグラウンドで練習を積み、2020年の東京五輪の予選に出場したい』と意気込んでいる」と話す小林さん。2020年、そしてその先の将来を見据え、ネパール野球の成長は続いていく。

NPO法人ネパール野球ラリグラスの会

小林　洋平　理事長（36）

「持続可能で逆境に強い世界」として認められ、鈴木大地スポーツ庁長官から感謝状を受け取った小林理事長＝NSスカイカンファレンスで

スポーツ庁facebookページ

４月６日は国連が定めた「開発と平和のためのスポーツ国際デー」です。スポーツ庁もこの日を活用し、スポーツの価値を広く周知するためにＳＮＳを利用した広報活動を行いました。その一環として、スポーツ庁のfacebookページに当会も登場いたしました。

グラウンド建設

現在、ネパールではグラウンド建設に向けて動き始めています。グラウンドの問題は常にネパール野球発展の妨げとなっている問題であり、グラウンド建設はネパール野球の関係者にとって長年の願いでもあります。以下、グラウンド建設の動きについて、その現状を紹介いたします。

建設予定地

グラウンドの建設予定地は、ネパール第２の都市ポカラ市にあるバルバドラ・セカンダリ・スクールです。当会の活動は１９９９年にポカラで始まりました。以来、同校はポカラにおける野球の拠点となっております。

左の写真はバルバドラ・セカンダリ・スクールの周辺を上空から写したものです。１は現在のグラウンド、２は農地、３は校舎と校庭で、全て学校の敷地です。

また、現在のグラウンドの状態は上の写真のようになっています。現在のグラウンドだけでは十分な広さが無いので、農地もグラウンドに転用する計画となっています。

ナワラジ・ブジェル氏来日

ネパールには野球のグラウンドが無いため、その建設や完成後の維持管理に関しても知識や技術が乏しいのが現状です。そうした現状を考慮し、グラウンド建設予定地であるポカラにおける野球の中心人物であるナワラジ・ブジェル氏が野球の施設について学ぶため８月下旬に来日いたします。

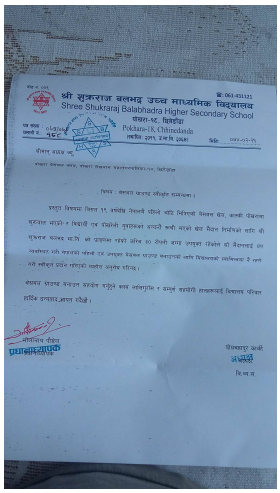
■ナワラジ・ブジェル氏

ポカラ・ベースボール・クラブの代表。２０１３年のＢＦＡ西アジア野球大会にネパールの代表選手として出場いたしました。ネパール野球の活動当初からプレーしている選手です。

ネパール側の承認

２０１７年６月初旬、バルバドラ・セカンダリ・スクールの関係者とポカラ・ベースボール・クラブの代表であるナワラジ・ブジェル氏が会談。バルバドラ・セカンダリ・スクールから同校の敷地をグラウンドの建設地として使用することを承認する旨の文書を受け取りました。

学校運営委員会からの文書



ポカラ・ベースボール・クラブ代表者殿

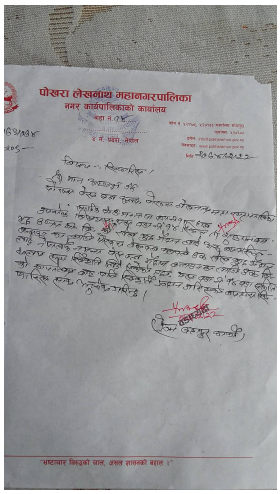
野球グラウンドの承認について

拝啓

私たちは、ネパールでは野球がもともと１９９８年にカシキ郡ポカラで始まったことを知って、大変嬉しく思います。最近では、野球がポカラの生徒や若者にとって最も興味深い競技のひとつとなっています。したがって、野球普及のために、学校運営委員会は、野球グラウンドの効果的な運営のために、敷地15270平方メートルを学校の財産として残ることを条件とし、提供することを決定しました。

ラリグラスの会およびグラウンド建設に対する全ての協力者に心より感謝申し上げます。

ポカラ市からの文書



ポカラ・ベースボール・クラブ代表者殿

お願い

拝啓

バルバドラ・セカンダリ・スクールの敷地に空いている土地があります。この土地を更に有効的に活用できるものとするため、あなたがたポカラ・ベースボール・クラブは、この場所にネパール初となる野球のグラウンドを建設することを計画し、バルバドラ・セカンダリ・スクールに学校の敷地を使用する許可を求めました。バルバドラ・セカンダリ・スクールはポカラ市役所に許可を求め、ポカラ市役所もこの申し出を許可いたしました。

この計画を順調に進めていただきますよう、ポカラ市役所からもお願いいたします。

スポンサー、講演依頼募集中

当会では、グラウンドを整備するためのスポンサー様を幅広く募集いたしております。また、当会の活動やグラウンド整備構想に関する講演の依頼も承っております。詳しくは、当会までお問い合せください。

（問い合せ先）info@nepalbaseball.net

■会費、寄付金お振込先
【銀行】三菱東京ＵＦＪ銀行　城東支店　普通口座 0187650
【郵便振替】口座番号 00950-8-165088
ＮＰＯ法人 ネパール野球ラリグラスの会

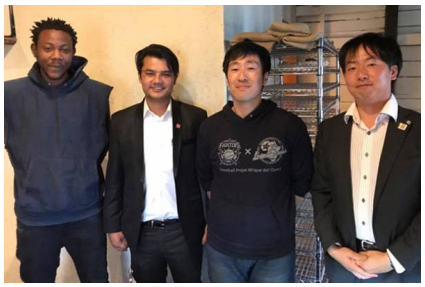
ワールド ベースボール チャレンジ プロジェクト

この夏、一般財団法人北海道ベースボールアカデミーが主体となり「ワールド・ベースボール・チャレンジ・プロジェクト」が行われます。このプロジェクトでは、世界９カ国から約１５名の選手が来日し、３ヶ月間に渡り研修や交流活動を行います。このプロジェクトにはネパールからも選手１名が参加いたしますので、ここでこのプロジェクトについてご紹介いたします。

北海道ベースボールアカデミー

北海道ベースボールアカデミーは２０１６年に設立された一般社団法人です。プロ野球選手を目指す若者たちを受け入れ、その挑戦の場を提供することを目的としており、現在、約１５名の選手が練習に励んでいます。

代表の出合裕太氏は青年海外協力隊のブルキナファソにおける初代野球隊員で、２００８年のブルキナファソ赴任以来、同国の野球発展に尽力されてきました。



出合裕太氏（右から２番目）

■ホームページ： http://japan-hba.com/

ニスカル・ケーシー

今回のプロジェクトにはネパールからニスカル・ケーシー君（２０歳）が参加します。彼はネパールの主要チームであるバクタプル・ライジングスターズで指導者的な役割も担っている選手です。また、一昨年５月末から２週間に渡り中国にあるＭＬＢの訓練施設で指導者としての研修を受けています。

ニスカル・ケーシー君の言葉

このような機会に恵まれて、大変嬉しいです。

私は、最初はただ楽しむために野球をしてましたが、より深く関わるうちに、楽しいだけではなく、野球でもっといろいろな経験を積むことができるのだと分かりました。一生懸命練習して、国を代表するような良い選手になり、大きな国際大会に出たいです。それと、ネパールの人に野球が素晴らしいスポーツだということを伝えていきたいです。

バクタプル・ライジングスターズ

ニスカル・ケーシー君が所属するバクタプル・ライジングスターズは、カトマンズ近郊のバクタプルで２０１３年に結成されたクラブチームです。野球を通じた青少年の育成やネパールでの野球普及にも尽力しています。

ネパール代表選手来日

ネパール代表選手が来日し、関西の独立リーグ、ベースボール・ファースト・リーグの球団、０６ＢＵＬＬＳ（ゼロロクブルズ）の練習に参加するなど、約３ヶ月に渡り野球の研修を行う予定です。また、野球の技術のみではなく、ネパールにおけるグラウンド建設に向けて、野球の施設についても見識を高めます。

来日する選手

アニール・パリヤー

捕手、２７歳

ポカラ・ベースボール・クラブ所属。ネパール野球の活動初期からプレーしている選手。ネパールが出場した３回の国際大会に全て出場。代表チームでは四番打者を務める。

マン・クマル・マル

投手・外野手、２２歳

ネパール国軍所属。２０１７年のＢＦＡ西アジア野球大会で国際大会に初出場。大会ではパキスタン戦、スリランカ戦に登板。強豪相手に好投を見せた。

06BULLS（ゼロロクブルズ）

来日する両選手が練習等に参加する０６ＢＵＬＬＳは、大阪府東大阪市をホームタウンとする独立リーグの球団で、「東大阪から頂点へ」をスローガンに、地域に根ざした球団を目指しています。

２０１２年にイッソー・タパ選手がプレーしたことが切っ掛けとなり、当会の活動にもご協力いただいております。

【球団概要】

■運　営：ＮＰＯ法人スポーツクリエイション
■代　表：水永 将太
■監　督：村上 隆行（元近鉄ほか）
■コーチ：石毛 博史（元巨人ほか）、坂 克彦（元阪神ほか）
■主　将：軽本 翔馬
■ホームタウン：大阪府東大阪市
■本拠地：花園セントラルスタジアム、豊中ローズ球場
■公式ホームページ： http://06bulls.com/

イッソー・タパ選手、村上隆行監督
（2012年）

日本ネパール野球交流プログラム2014
（2014年）

第13回BFA西アジア野球大会2017

２０１７年２月２５日から５日間に渡り、パキスタンのイスラマバードで「第１３回西アジア野球大会」が開催され、ネパールも出場いたしました。ネパールとしては４年ぶりの国際大会出場となりました。以下、今回の大会についてご紹介いたします。

大会概要

■大会名：13TH BFA WEST ASIA BASEBALL CUP 2017
■開催日：２０１７年２月２５日（土）から３月１日（水）
■会　場：Islamabad Sports Complex （パキスタン・イスラマバード）
■参加国：イラン、イラク、ネパール、スリランカ、パキスタン
■試合方式：予選リーグと決勝トーナメント

予選リーグ
（グループＡ）パキスタン、イラク、ネパール
（グループＢ）スリランカ、イラン
＊各グループの上位２チームが決勝トーナメントに進出。

（注）当初、インドが出場予定でグループＢに入っていましたが、大会前日に不参加が決定したため、Ｂグループは２カ国のみとなりました。

ネパール代表選手団

団　長：プラディープ・クマル・カトリ
監　督：ディパック・ネウパネ
ヘッドコーチ：小林 洋平
コーチ：西尾 匠、アショック・バッタチャン
コーチ補佐： 徳中優俊
スタッフ：鈴木秀利
審判員：アビシェック・カリキ
投　手：イッソー・タパ（ナインフォース）
　　スクリム・タパ（バクタプル）
　　ミラン・タパ（ＡＰＦ）
　　モハマド・イルシャド・フセイン（ＡＰＦ）
捕　手：アニール・パリヤー（ポカラ）
　　ジット・バハドール・タマン（ＡＰＦ）
　　ビマル・ラミチャネ（ネパール国軍）
捕　手：アニール・パリヤー（ポカラ）
　　ジット・バハドール・タマン（ＡＰＦ）
　　ビマル・ラミチャネ（ネパール国軍）
内野手：ラジェス・バスネット（ポカラ）
　　カダック・シン・ビスト（ＡＰＦ）
　　プラカシュ・バハドール・プジャラ（ＡＰＦ）
　　ディネッシュ・シン・バンダリ（ネパール国軍）
　　マン・クマル・マル（ネパール国軍）
　　ジーバン・ナト（ネパール国軍）
　　スバス・ボハラ（ネパール国軍）
外野手：パダム・シン・プジャラ（ＡＰＦ）
　　アチット・カリキ（ＡＰＦ）
　　ビノッド・コイララ（ネパール国軍）

大会結果

予選でネパールがイラクに勝利。国際大会での初勝利を収めました。また、大会はスリランカが決勝でパキスタンを下し、初優勝いたしました。優勝のスリランカと準優勝のパキスタンは１０月に台湾で行われるアジア野球選手権に出場いたします。

なお、次回の大会は２０１９年に行われ、２０２０年の東京オリンピックの予選となります。

予選　グループＡ

順位	チーム	PAK	NEP	IRQ	勝	敗	分
1	パキスタン	—	○ 16 - 1	○ 25 - 0 *	2	0	0
2	ネパール	● 1 - 16	—	○ 13 - 3 *	1	1	0
3	イラク	● 0 - 25 *	● 3 - 13 *	—	0	2	0

予選　グループＢ

順位	チーム	SRI	IRI	勝	敗	分
1	スリランカ	—	○ 22 - 0 *	1	0	0
2	イラン	● 22 - 0 *	—	0	1	0

決勝トーナメント

準決勝		
パキスタン	11 - 0	イラン
スリランカ	11 - 0	ネパール
3位決定戦		
イラン	10 - 6	ネパール
決勝		
スリランカ	10 - 6	パキスタン

「＊」はコールドゲーム

西尾匠コーチの言葉（大阪経済法科大学在学中）

「２月初めから約１ヶ月間、コーチとして参加させていただきました。最初は、代表のコーチとしてチームを指導していけるのか不安もありました。選手とのコミニケーションや練習環境など、様々な問題はありましたが、楽しく取り組めました。大会では、悔しい試合もありましたが、選手はよくやってくれたと思いますし、私にとっても貴重な経験でした。ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。」

優勝したスリランカ

大会の様子

侍ジャパン 公式ウェブサイト

当会では、２０１５年４月より、野球日本代表「侍ジャパン」の公式ウェブサイト内のコラム「世界の野球」において「ヒマラヤを北に臨む国ネパールの野球」と題したネパール野球を紹介する記事を執筆させていただいております（不定期更新）。ここに、最近のコラムの中から２つの記事を紹介させていただきます。

第25回（2017年4月4日掲載）

「第13回BFA西アジア野球大会2017 vol.1」

前回の記事から約1ヶ月、日本はWBCで盛り上がっていた。WBCではイスラエルの活躍も注目を集めたが、昨年9月に行われたWBCの予選では、パキスタンもイスラエルと同じグループで本戦出場を争った。そのパキスタンで、「第13回BFA西アジア野球大会2017」（13th BFA West Asia Baseball Cup 2017)、いわゆる「もうひとつのWBC」が本家のWBCより一足早く開幕を迎えた。

大会出場に向け、ネパールは様々な準備をしてきた。しかし、大会を前にして、アジア野球連盟から残念な知らせが届いた。スシル・パリヤーとサグン・キチャジュの両選手は18歳未満なので今回の大会には出場できないというのである。急な知らせに私たちは困惑した。両選手は今後のネパール野球の中心となる選手である。選手が無理ならスタッフとして帯同させようと試み、アジア野球連盟にも了承は得たが、パキスタン政府からビザ発給の許可が下りず、それも叶わなかった。選考会で大活躍した両選手には期待していただけに、欠場は大きな戦力低下となった。

また、大会前日になって、インドの不参加が決定した。パキスタン政府からビザ発給の許可が下りなかったのである。政治的な理由とはいえ、残念な限りである。前回の記事では、グループA（ネパール、パキスタン、イラク）とグループB（スリランカ、イラン、インド）に分かれて予選リーグを戦い、各グループの上位2チームが決勝トーナメントに進出すると述べたが、インドの不参加により、グループBはスリランカとイランの1試合のみとなった。

試合が始まると、ネパールは4回まで三者凡退が続いた。一方のパキスタンは1回裏に打者11人の猛攻で8点を奪った。ネパールの先発投手は、国際大会初出場の緊張感から初回は自分の投球ができなかった。ネパールでの選手選考会において彼には経験不足が目立ったが、ちょっとしたポイントを伝えて経験を積めば良い投手になると考え、代表チームに選出した。彼は私たちの期待通り、2回以降は落ち着きを取り戻し、別人のような投球でパキスタン打線を抑えた。

4回終了時点で得点は10対0。しかし、ネパールは5回表に先頭打者が左中間に二塁打を放ち出塁。その後、一死から投ゴロの間に本塁を落とし入れた。ネパールがパキスタンから初めて得点を奪った瞬間である。ネパールのベンチは歓喜に湧いた。点差はあっても最後まで諦めていない姿をみせた。試合は最終的に16対1で6回コールドとなったが、貧打と拙守で5回未満のコールドとなっていた過去の対戦から考えれば、大きな進歩である。試合前は不安も抱いていたが、レギュラー選手が中心となれば、9回まで戦えるという確信を持った。

大会2日目、ネパールはイラクとの対戦を迎えた。この試合に勝った方が決勝トーナメントへ進出すると言ってよい重要な試合である。ネパールの先発投手は、ネパール代表の主将で日本の独立リーグでもプレーしていたエースのイッソー・タパである。（現在は奈良県の社会人硬式野球クラブ「ナインフォース」に所属）イッソー・タパは貫禄の投球を見せ、イラク打線から19個の三振を奪った。
実はこの試合前の練習でイッソー・タパは肉離れを起こしていた。走ることもできず、試合に出場することさえ難しい状況であった。しかし、彼は初勝利を勝ち取るという信念で投げ抜いた。その姿を見て、私も彼のリーダーとしての強い自覚を感じた。

一方、ネパール打線も1回裏に先頭打者の内野安打を足掛かりに2点を先制し、その後も小刻みに得点を重ね、徐々にイラクを突き放していった。終わってみれば、13対3の8回コールドで、ネパールは国際大会での初勝利を飾り、ネパール野球にとって歴史的な試合となった。ネパール本国でこの知らせを受けたネパール野球ソフトボール協会の会長からも「大変嬉しいです。チームの皆さんに感謝します。世に不可能なるもの無し。これからも頑張ってください。」との言葉が寄せられた。また、ネパールの初勝利はネパール国内でも報道された。

翌日、イラクがパキスタンに負け、ネパールの決勝トーナメント進出が確定した。そしてネパールは準決勝でパキスタンと並ぶ強国であるスリランカと対戦することとなった。

第26回（2017年4月18日掲載）

「第13回BFA西アジア野球大会2017 vol.2」

大会4日目、スリランカとの準決勝が始まった。パキスタンと同様に、スリランカともネパールは過去2度対戦しているが1点も奪えず大差でコールド負けしている。しかし、予選リーグの戦いぶりからも分かるように、ネパールの実力は確実に向上している。
だが、予選リーグではまずい走塁が目立ち、自滅しているシーンが多く見られた。そのため、スリランカ戦の前日は走塁に重点を置いて練習を行った。「昨日の走塁を試合で実践しよう！」と試合前の円陣で選手たちに呼びかけ、スリランカ相手にどこまで戦えるか、期待を持ちながら試合に臨んだ。

試合は序盤からスリランカ優位の展開となり、スリランカが3回までに8安打で11点を奪う一方でネパールは三者凡退が続いていた。その後、ネパールは4回から登板した2番手投手が好投し、スリランカ打線を無安打に抑えた。彼は3日前のパキスタン戦にも登板して好投を見せていたので期待していたが、その期待に見事応えてくれた。しかし、ネパール打線は完全に沈黙したままで、結果的に11対0で7回コールドながら完全試合を喫してしまった。走塁を実践することさえできなかったことが何よりも残念だった。

尚、もう一方の準決勝、パキスタン対イラン戦では11対0でパキスタンが勝利を収めた。この結果、決勝戦はパキスタン対スリランカとなり、ネパールは銅メダルを懸けてイランと戦うこととなった。イランは前回準優勝のチームであり、今回はキューバ人のコーチ陣がチームを指揮していた。決して楽な相手ではないが、チーム全員が「絶対に勝つ」という信念で試合に臨んだ。

そして翌日の大会最終日、イランの先行で3位決定戦が始まった。ネパールはイラク戦から中2日でイッソー・タパが先発のマウンドに立った。試合が始まると、序盤は両軍譲らず4回表まで0対0の均衡が続いた。
試合が動いたのは4回裏。ネパールが2点を先制した。しかしこの時、事件が起こった。2点目のホームインがクロスプレーとなり、一度はセーフの判定が下ったものの、その後、イランの捕手がホームインした走者にタッチするとアウトに判定が覆った。これに激高したネパールの監督が主審に詰め寄って激しく抗議した末、退場処分となってしまった。選手たちも全員ベンチを飛び出し、グラウンドは騒然となった。審判団で確認した結果、再びセーフに覆るとイラン側が猛抗議。銅メダルが懸かった試合だけに、両チームとも熱くなっていた。そして、2点目の走者は本塁突入の際に負傷して交代。先制はしたものの、ベンチは重苦しい雰囲気に包まれてしまった。
その後、ネパールは集中力を欠いたプレーが続き、守備も乱れた。負傷交代したのが守備の上手い遊撃手であったのも痛手であった。5回表にエラーからすぐさま同点を許すと、7回表までに10対2と突き放されてしまった。7回裏に4点を返し、10対6として意地を見せたものの追いつかなかった。

この試合、イッソー・タパは肉離れで厳しい状態の中、6回で2安打、自責点0（5失点）とよく投げた。また、イランの5安打に対しネパールは7安打と安打数はネパールが上回っていたにも関わらず、悔しい結果となってしまった。イランはキューバ人コーチの下、守備がよく鍛えられていた。試合時間5時間超の激闘になったが、細かい点で得点差以上の差があり、負けるべくして負けたと感じている。

しかし、ネパールも4年前より確実に成長していた。メダルは次回に持ち越しとなり、今回はこのような結果に終わってしまったが、役員や選手たちがこの悔しさを持ち続けることが次につながっていく。ネパールのディパック・ネウパネ監督は大会を振り返って「今回の大会に参加したことは私たちにとって素晴らしい経験でした。そしてこの経験はネパール全土での野球の発展につながっていくことでしょう。」と感想を述べている。今後も私たちは、例えばグラウンド建設など、そうした選手たちを後ろから支える活動をし、2年後の東京オリンピック予選にも繋げていきたい。

さて、ネパール対イランの試合が終わって間もなく、パキスタンとスリランカの決勝戦が始まった。両者互角で息詰まる熱戦の末、4対2でスリランカがアジア5位のパキスタンを破り、初優勝を飾った。スリランカとパキスタンは今秋に台湾で行われる「第28回BFAアジア野球選手権」に出場し、日本、韓国、台湾、中国のアジア四強とも対戦する。

ゴルカクルーのコーチ陣来日

２０１７年１月２１日から５日間に渡り、ゴルカクルーのコーチ陣が来日し、大阪の履正社医療スポーツ専門学校および履正社高等学校の女子硬式野球部の練習に参加するなど、指導者としての研修を行いました。

ゴルカクルーについて

ゴルカクルーは２０１５年６月にネパールのパタンで設立された少年および青年野球のクラブチームで、野球を通じた青少年の健全育成を目的として日々活動しています。

設立以来、野球技術の習得にも積極的に取り組んでおり、今回はその一環として、以下の４名が来日いたしました。

- ディネッシュ・バジャガイン（代表）
- ケシャブ・タパ（副代表）
- ヒム・クマリ・シンタニ（女子担当理事）
- スクリム・タパ（ネパール代表選手）

活動概要

・バット工房「匠」、ＢＢＡグローブ工房の見学
・履正社箕面キャンパスにて女子校式野球部の練習に参加
・鳴尾浜球場にて阪神タイガースの自主トレーニングの見学
・阪神甲子園球場の見学

ヒム・クマリ・シングタニ氏の言葉

「ありがとうございました。来て良かったです。言葉の問題があって、あまり質問はできませんでしたが、勉強になりました。日本語も勉強したいです。」

履正社・橘田恵監督の言葉

「初めてネパール野球を見させていただき、こちらも学ばせてもらうことができました。選手たちもネパールの皆さんと良くコミュニケーションが取れていて国際交流もできました。良い機会をありがとうございました。」

その後、履正社高校女子野球部は３月に行われた全国女子公式野球選抜大会で初優勝いたしました。

また、橘田監督は、侍ジャパン女子チームの監督に就任。９月に香港で行われる第１回ＢＦＡ女子野球アジアカップで指揮を執ります。

アジア野球連盟総会

２０１７年７月４日に台湾の宜蘭で２年に１度のアジア野球連盟総会が行われました。ネパールからはネパール野球ソフトボール協会（ＮＢＳＡ）のディパック・ネウパネ事務局長と当会の小林洋平、鈴木秀利が参加いたしました。

総会の概要

■開催日：２０１７年７月４日
■会場：宜蘭悦川酒店（台湾・宜蘭市）
■内容
・アジア野球連盟会長挨拶
・世界野球ソフトボール連盟会長挨拶
・事業報告
　　２０１６年決算、２０１７年予算、表彰等
・議事
　規約改定
　役員改選（会長、副会長、実行委員）
・その他

ＢＦＡの新役員

会長には台湾の彭誠浩（Tom Peng）氏が再選されました。また、ネパールのディパック・ネウパネ氏は実行委員に立候補いたしましたが、選出には至りませんでした。その他、先般のパキスタンで開催された西アジア野球大会でインドチームにビザが発給されなかった問題を受け、今後の再発防止策についても討議がなされました。

ネパール野球ソフトボール協会

アジア野球連盟加盟国

アジア野球連盟には以下の２４の国と地域が加盟しています。そのうち、今回の総会には１６の国と地域が参加いたしました。

アフガニスタン	ブルネイ	カンボジア
中国	香港	インド
インドネシア	イラク	イラン
日本	カザフスタン	韓国
マレーシア	モンゴル	ミャンマー
ネパール	北朝鮮	パキスタン
フィリピン	シンガポール	スリランカ
台湾	タイ	ウズベキスタン

総会の様子

会場風景

会場風景

役員改選選挙

彭誠浩ＢＦＡ会長（左）

ネウパネＮＢＳＡ事務局長

フラッカリーＷＢＳＣ会長（中央）

社会人硬式野球チーム Nine Force

当会は奈良県山添村を本拠地として活動している社会人硬式野球チーム「Nine Force （ナインフォース）」の運営母体となっております。以下、２０１７年のナインフォースの活動についてご報告いたします。

試合結果

ナインフォースは主に週末に本拠地の山添村のほか、奈良県、三重県、京都府などのグラウンドで試合や練習を行っています。
今年はこれまでに、以下のとおり５試合のオープン戦を行いました。

2月19日（日）	△１-１	岐阜硬式野球倶楽部	上野運動公園野球場（三重県）
2月26日（土）	●６-０	瀬田クラブ	ならでんスタジアム（奈良県）
3月 4日（土）	●５-７	一城クラブ	ならっきー球場（奈良県）
3月26日（日）	●３-10	全三重クラブ	ヤマギシ豊里球場（三重県）
6月18日（日）	○12-９	関西Hang	吉野運動公園野球場（奈良県）

藤森監督からのメッセージ

「硬式野球がしたい、挑戦したい人にその環境を提供する」をチームコンセプトに野球活動を行っています。硬式野球を幅広い方々に認知してもらいたいという思いで、国内での野球活動はもちろん、ネパールでの野球普及活動にも注力しています。また、奈良県山添村との提携による地域活性化にも力を入れています。

神野山つつじまつり

地域貢献活動の一環として、５月３日に山添村で開催された「神野山つつじまつり」に参加いたしました。当日は、会場にブースを出展し、子供たちを対象としたストラックアウトやスピード計測などを行いました。
また、メインステージでは、奈良県住みます芸人「十手リンジン」とともに、会場の方々を巻き込んでストラックアウトで対決。イベントを盛り上げました。

選手紹介

ここで、ナインフォースの選手うち３名の選手をご紹介します。

26 中西 達也

【出身】三重県
【年齢】22歳
【守備】外野手
【投打】右投右打
【出身校】 伊賀白鳳高校
【好きな野球選手】
　田中浩康（DeNA）

　中西選手の最大の特徴は「思いっきりの良さ」です。体格は小柄ながら、バットが背中に巻き付くぐらいのスイングで、パンチ力があります。かと思えばライトにセンターにシブい打球も打ち、まさに「１番打者」。
　しかしながら、彼の思いっきりの良さはむしろ守備や走塁で発揮されていると感じている選手も。とにかく守備範囲が広く、安定感は抜群。ここぞという場面でのダイビングキャッチの成功率は高く、幾度となく彼の守備に助けられています。

24 岡本 翔太

【出身】滋賀県
【年齢】22歳
【守備】外野手
【投打】右投右打
【出身校】近畿医療専門学校
【好きな野球選手】
　中島卓也（日本ハム）

　岡本選手は元々ソフトボール経験者であり、硬式野球の経験はナインフォース入団までありませんでした。
　硬式野球未経験ということで、野球の技術レベルは高くないのは事実です。しかし、彼は真面目に、クールに、そして、ひたむきに練習、トレーニングに取り組んでいます。それは彼自身が野球が上手くなりたいという一心であることに他なりません。そんな彼の姿に周囲も応えるかたちで、様々なアドバイスをします。それが彼にも他の選手にも良い刺激となり、相乗効果となっています。

2 安田 涼佑

【出身】大阪府
【年齢】22歳
【守備】内野手
【投打】右投左打
【出身校】大阪商業大学
【好きな野球選手】
　鳥谷敬（阪神）

　プレー面では、走攻守どれを取ってもエネルギッシュ！体格は小柄ですが、打撃は攻撃的で右に左に鋭い打球を飛ばし、高い打率を残しています。守備は主に遊撃手です。
　堅実なプレーでチームを引っ張るだけではなく、元々彼の本職は捕手であり、戦術面は特に熟知しています。そのため、練習でも試合でも司令塔的な存在であり、アドバイスや指示、そして彼がこれまで培ってきた野球知識を存分に他の選手に伝えてくれています。
　彼にはチームを引っ張る役割を担ってもらいたいと考えています。

選手・マネージャー・スタッフ募集中

　日本野球連盟（ＪＡＢＡ）への加盟に向けて、ナインフォースはメンバーの増員が必要です。硬式野球が好き、プレーしたい、携わってみたい、挑戦したいという思いを持ち、チームコンセンプトに合う人であれば、男女・年齢・経験は問いません。新しい概念での野球活動をモットーにしているので、「厳しそう」、「レベル高そう」というイメージは一旦置いてください。選手だけではなく、マネージャーや指導者等のスタッフも募集しています。

　興味のある方、是非ご連絡お待ちしております。

■ホームページ：https://www.9force.net/
■メール：baseball@9force.net

ネパール野球の歩み

当会は１９９９年の活動開始以来、野球を通じたネパールとの交流を目的とし、様々な活動を行ってまいりました。ここで、これまでの当会ならびにメパール野球の歩みをご紹介したします。

活動当初

1999年

- プール学院大学のネパール研修中にネパールでは野球が全く知られていないことを知る。赤松弘章を中心にネパール野球紹介活動グループが発足。現地ＮＧＯ「ＥＳＯＤＥＣ」とともに活動を開始。（2月）
- アマ・シン・セカンダリースクールの学生２０名に「これがボールです」と道具の説明から野球交流活動がスタート（9月）

吉田義男氏のご指導
（2000年）

2000年

- 野球が続けられていたのを確認し、ルールを中心とした紹介。
- 元阪神タイガース監督の吉田義男氏からご指導をいただく。
- アマ・シン・セカンダリースクールで２チームを作り、対抗戦を開催。

2001年

- 現地指導者として花倉雄宇也を派遣（2001年3月～2002年3月）。
- 初のポカラ市内学校対抗トーナメント大会を開催。

2002年

- 現地指導者として園田健弥を派遣（2002年5月～2003年3月）。
- ネパール語の野球ルールブックを作成。

ポカラでの大会
（2001年）

現地指導者派遣

2003年

- カトマンズ大学で野球紹介活動。ポカラ選抜と試合を行なう（ポカラ選抜が勝利）。

2004年

- 野球交流活動に参加したＯＢ・ＯＧが中心となり、ネパールで野球「ラリグラスの会」（代表：小林洋平）が発足。
- 現地指導者として三浦昌広を派遣（2004年4月～10月）
- シャム・グルン（ネパール人指導者）を育成。

2005年

- ホームページを開設。
- LALIGURANS草野球チーム始動。

草野球チーム・ラリグラス

2006年

- 1996年から行われていたネパール内戦が終結。
- 現地事務所兼日本語学校としてポカラハウスを設立（10月）。
- 現地指導者として小林洋平を派遣（2006年8月～2007年3月）、ポカラハウスの設立と運営にも関わる。
- 日本語教師として糸賀恵理子（2006年9月～2007年12月）、小林剛史（2006年9月～2008年４月）を派遣。
- ポカラハウスのスタッフとしてネパール人５名を雇用。
- 第１回ポカラ・ベースボール・トーナメント開催（11月）。
- 1996年から続いていたネパールの内線が終結。

ポカラハウスのスタッフ
（2006年）

ワンワールドフェスティバル
（2007年）

2007年

- ワンワールドフェスティバルに初出展（2月）。
- 日本語教師として峯尾なつみを派遣（2007年3月～2008年3月）。
- 現地指導者として藤岡恭兵を派遣（2007年７月～2008年５月)。
- カトマンズとバクタプルで野球を紹介。
- 第２回ポカラ・ベースボールトーナメント開催（3月）。

2008年

- 第３回ポカラ・ベースボールトーナメント開催（4月）。
- バクタプルにて、ポカラ、カトマンズの２チーム、バクタプルの計４チームによるトーナメント大会を開催。

ポカラ・ベースボール・
トーナメント（2008年）

イッソー・タパのトライアウト
（2009年）

2009年

- ポカラハウス閉鎖（2月）。
- 現地指導者として原田篤を派遣（2009年7月～2009年9月）。
- イッソー・タパを日本に招聘、ネパール人として初めてプロ野球独立リーグの入団テストを受験（11月）。

ネパール野球の歩み

2010年

- イッソー・タパを日本に再び招聘、関西独立リーグ大阪ホークスドリーム（監督：門田博光氏）に入団しネパール人初のプロ野球選手誕生（11月）
- ネパール野球ソフトボール協会設立（会長：Asit SJB Rana）。

2011年

- パキスタンで第１回南アジア野球選手権開催。ネパール初の国際試合。ネパール代表チーム参加への支援活動を行う。
- ネパールが世界ランク５５位にランクイン。
- イッソー・タパが０６ブルズ（監督：村上隆行氏）に移籍。０６ブルズと提携。

2012年

- イッソー・タパ、０６ブルスを退団。（11月）
- パキスタンPunjab International Sports Festival 2012にて銅メダル獲得。（11月）
- 東北楽天の秋田佳紀コーチによるトレーニング講習会を開催。（12月）

タパさん喜びの仮契約
独立L・ホークスドリーム入団
日本のプロ野球選手を目指すネパール人青年の投手・イッソー・タパさん(22)が27日、来季から関西独立リーグに加入する「大阪ホークスドリーム」（高石市）の選手として仮契約した。他の選手と同じく無給でのプレーになるが、ネパール第1号のプロ選手となる夢がかなったタパさんは、ここで活躍し将来はNPBにいと意気込んでいる。
タパさんは、プール学院大（堺市）の学生やOBでひたすら能力を磨くレベルに達した。秋、BCリーグ球団の練習を見学した。
仮契約を終え森本彰GM（右）と握手するイッソー・タパさん（中央）。左はラリグラスの会の小林洋平代表（高石市で）

イッソー・タパ、大阪ホークスドリーム入団（2010年）

第１回南アジア野球選手権（2011年）

パンジャブ・スポーツ・フェスティバル（2012年）

国際野球連盟総会（2013年）

東大阪・パキスタン友好試合（2013年）

世界少年野球フェア（2013年）

2013年

- ネパールに１トンの野球道具を輸送し、ネパールから感謝状授与。（2月）
- 国際野球連盟（IBAF）の総会にネパールが初参加し、加盟が承認される。（4月）
- ネパールと友好関係にあるパキスタン野球連盟から依頼がありパキスタン東大阪友好親善試合の実施（6月）。また、12月にパキスタン野球連盟から表彰される。
- NPO法人ネパール野球ラリグラスの会へ名称変更（８月）
- ネパール野球15周年式典開催（8月）
- 世界少年野球推進財団主催（理事長：王貞治氏）の野球教室にネパール（選手5名と役員１名）が招待される（8月）
- ネパール人指導者２名が来日、短期研修実施（8月）
- スリランカで第１回西アジア野球審判講習会が開催。アビシェック・カリキが参加。（11月）
- 第２回インド・プレミアリーグに10名派遣予定も国内デモの影響で参加できず。（11月）
- イランの不参加によりパキスタンで開催された第11回西アジアカップに急遽出場。小林洋平がネパール代表監督に就任し、監督賞を受賞。（12月）

2014年

- 日本テレビ「Going Sports&News」がネパール野球を現地取材。（4月）
- 「日本・ネパール野球交流プログラム２０１４」を実施。ネパールから少年野球選手団を日本に招き、各地で親善試合などを行なう。（8月）

日本・ネパール野球交流プログラム2014

震災復興支援物資の配布（2015年）

南アジア交流野球教室（2015年）

2015年

- 日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業「SPORT FOR TOMORROW」のコンソーシアム会員になる。（3月）
- バクタプルで学校対抗野球大会を開催（3月）
- ネパール語の新ルールブックを作成（3月）
- 東京のネパール人学校、エベレスト・インターナショナル・スクールで野球交流会を実施。（4月）
- ネパールで４月２５日に大地震発生。小林理事長と鈴木事務局長がネパールに赴き、現地の状況を調査するとともに、バクタプルの被災者に支援物資を手渡す。（5月～）
- 中国のMLBアカデミーにネパール人指導者2名を派遣（6月）
- 現地指導者として重田大輝を派遣。
- 東京都板橋区・高島第三小学校にて「南アジア交流野球教室」を開催。（11月）

2016年

- 社会人硬式野球チーム「ナインフォース」の運営母体となる。（1月）
- Ｊリーグ等が中心となり開催されたネパール防災スポーツ教室に参加（2月）
- カトマンズで「ネパール復興支援野球大会」開催（4月）
- 東京のネパール人学校、エベレスト・インターナショナル・スクールで野球交流会を実施。（5月）
- ネパールとインドの野球協定が結ばれる。（8月）
- 東京・代々木公園で開催されたネパールフェスティバル2016にて海外在住ネパール人協会より表彰を受ける。（8月）
- 東京都・高島第三小学校および舟渡小学校で「南アジア交流野球教室２０１６」開催。（11月）

ネパール防災スポーツ教室（2016年）

ネパール復興支援野球大会（2016年）

2017年

- ゴルカクルーのコーチ陣が来日研修。（1月）
- 第13回ＢＦＡ西アジア野球大会出場。国際大会初勝利。（2月）
- ＳＦＴＣ全体会議でスポーツ庁長官より感謝状を授与される。（7月）
- ニスカル・ケーシー君が北海道ベースボールアカデミーの研修プログラムに参加（7月）

ご挨拶

平素はネパール野球ラリグラスの会に温かいご支援を賜りましてありがとうございます。「ラリグラス通信２０１７年度増刊第２号」を発行するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、当会は１９９９年の活動開始以来、１８年に渡りネパールとの野球交流活動を続けてまいりました。また、一昨年のネパールでの大地震におきましてもネパールの復興支援に微力ながら取り組んでまいりました。このような当会の活動に対し、このたび、日本政府が推進するスポーツによる国際貢献事業である「SPORT FOR TOMORROW」に参加している団体の中から、特にその功績が認められ、スポーツ庁長官より感謝状を賜りました。このような感謝状を賜ることは当会にとって身に余る光栄でありますが、これも皆様のご支援があってこその授章であり、これまでご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。

また、去る２月にはパキスタンのイスラマバードで「第１３回ＢＦＡ西アジア野球大会２０１７」が開催され、ネパールも出場いたしました。ネパールにとっては４年ぶりの国際大会となりました。経済的な問題でネパールにとって国際大会に出場することは容易ではありません。しかし、昨年１２月には代表選手選考会を兼ねた国内大会を開催し、イスラマバードまで陸路で移動して経費を節減するなど、ネパールの野球関係者の熱意により今回の大会に出場することができました。そして、大会では銅メダルに一歩届かなかったものの、国際大会で初勝利を収めるなど、過去の大会に比べて大きな進歩を見せました。

次回のＢＦＡ西アジア野球大会は２０１９年の開催が予定されていて、その大会が２０２０年の東京オリンピックの予選ともなります。そして、ネパールの野球関係者一同は、その大会までには長年の願いであるグラウンドを建設し、代表チームがそのグラウンドで練習してオリンピック予選に臨めるようにしたいと考えております。そんな中、本年６月には建設予定地であるバルバドラ・セカンダリ・スクールの敷地提供に対し、同校の学校運営委員会およびポカラ市からの同意文書を受けております。今後は、ポカラ・ベースボール・クラブを中心にグラウンドの仕様や建設費など、より具体的な計画を策定し、当会もそのサポートを行ってまいりますが、グラウンドの仕様としては、子どもたちが安心して遊べ、災害時には避難所として利用できるものといたします。

最後に、常に申し述べていることではございますが、当会の活動理念は一方的な支援ではなく共に成長する「協働」で、「野球から広がる笑顔の輪」を合言葉にネパール側と協力しながら活動を進めております。そして、最終的にはネパール野球がネパール人の自主運営によって行われることを目指してまいります。今後もこの方針を堅持し、活動を続けてまいります。また、当会では、様々な形で活動にご協力いただける方々を広く募集しております。今後とも皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

ＮＰＯ法人ネパール野球ラリグラスの会　理事長

小林 洋平

Road to Tokyo 2020

ひとりでも多くの方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

野球道具のご寄付

但し、バット、衣類・靴類のご寄付は新品に限りお受けしております。

講演のご依頼

８月までの予定は決まっておりますので、９月以降の日程でご検討ください。

会員・スポンサー募集中

当会はの活動は会費、寄付金で成り立っております。

ネパールでのグラウンド建設

ネパールではグラウンド建設が強く望まれています。何卒ご支援をお願いいたします。

ネパール野球を応援していただける方を広く募集いたしております。

お知り合い・ご友人の方々にもネパール野球をご紹介いただけるとありがたいです。

■会費、寄付金お振込先
【郵便振替】口座番号 00950-8-165088
【銀行】三菱東京ＵＦＪ銀行　城東支店　普通口座 0187650
ＮＰＯ法人 ネパール野球ラリグラスの会

編集・発行：ＮＰＯ法人 ネパール野球ラリグラスの会
〒536-0016　大阪市城東区蒲生１丁目１０−５　Ｆ−ＣＵＢＥビル ２０２号
http://www.nepalbaseball.net/ E-mail: info@nepalbaseball.net